

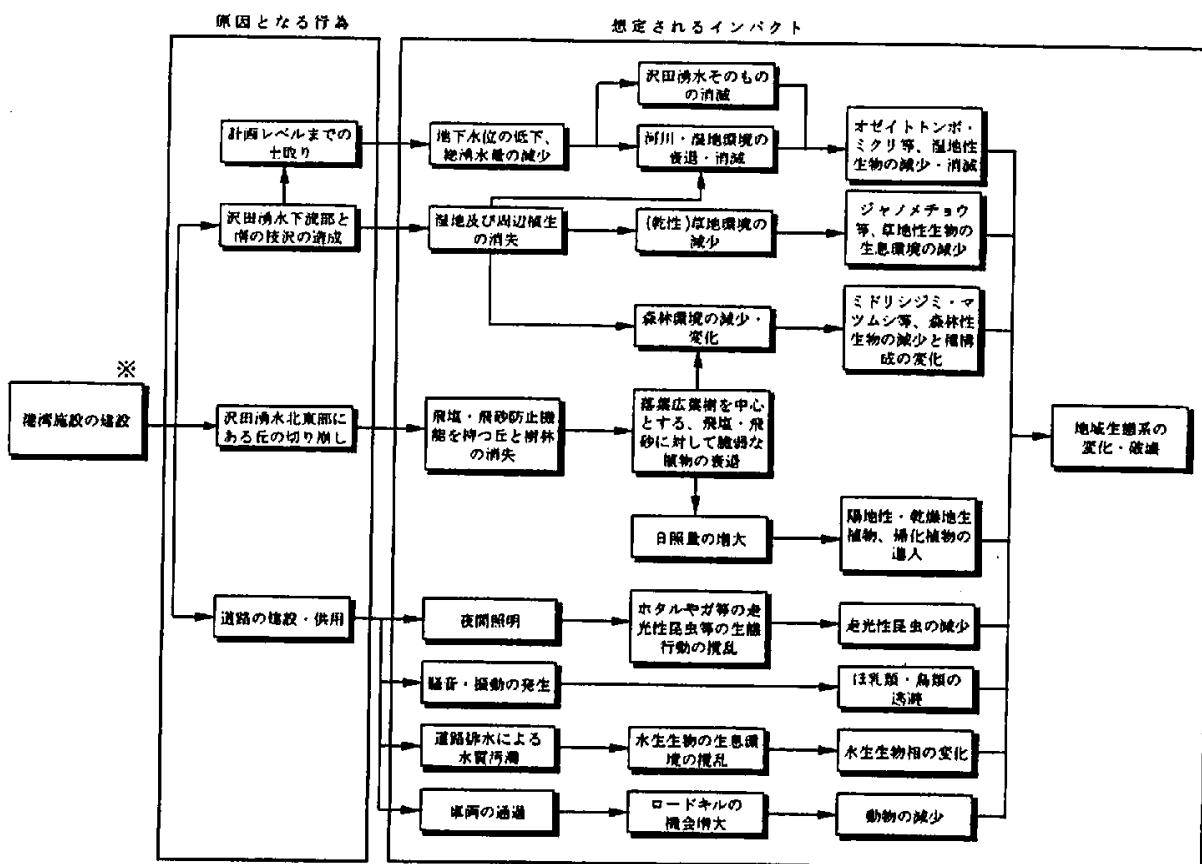
表14-2 影響要因と環境要素の変化のマトリックスの例

環境要素	影響要因	工事の実施段階							存在					供用						
		造成工事	森林の伐採	搬送の移動	車両の通行	照明の設置	人の侵入	…	植生の変化	地形の変化	水系の変化	工作物の存在	道筋の存在	…	自動車の走行	人の侵入	工場・事業場等の稼働	取水	排水	…
大気環境	生態系へ影響を与える環境要素の変化																			
	大気汚染物質の発生																			
	化学物質の発生																			
	騒音の発生																			
	振動の発生																			
	微気象の変化																			
水環境	水の濁り																			
	水の汚れ																			
	水系の変化																			
	富栄養化																			
	水量の変化																			
	水温の変化																			
	地下水位の変化																			
土壤環境他	地形の変化																			
	表層の浸食、土壌の流出																			
	土壌の変化（乾燥化等）																			
	汚染物質の浸透																			
生物群集	植生の変化																			
	生息場所の分断																			
	生物種の死滅・逃避																			
	移入擾乱の侵入																			
	踏圧の発生																			
	盗掘、捕獲、殺傷																			
	餌付け																			
その他	廃棄物の発生																			
	日照、光条件の変化																			

表14-3 環境要素の変化と類型のマトリックスの例

環境要素の変化	大気環境				水環境				土壌環境他				生物群集				その他			
	大気汚染物質の発生	化学物質の発生	騒音の発生	振動の発生	微気象の変化	水の濁り	水の汚れ	水系の変化	水温の変化	地下水位の変化	地形の変化	土壤の変化（乾燥化等）	汚染物質の浸透	植生の変化	生息場所の分断	生物種の死滅・逃避	移入擾乱の発生	踏圧の発生	盗掘、捕獲、殺傷	廃棄物の発生
類型																				
A (山地-常緑広葉樹林)																				
B																				
C																				
D																				
E																				
F																				
G																				
:																				

図14-1 影響フロー図の例



※陸域の丘陵地に変更が及ぶ事業内容である。

日置ほか(1998) (一部改)

14-3 調査

1 調査すべき情報

(1) 動植物その他の自然環境に係る概況

自然環境に係る概況は、動植物の状況とその生息又は生育環境である地形、地質、土壤、水系の状況、特性について調査する。

(2) 複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況

「注目種」とは、地域を特徴付ける生態系の特性として、次に示す「上位性（生態系の上位に位置する種）」、「典型性（地域の生態系の特徴を現わす種）」及び「特殊性（特殊な環境であることを示す指標となる種）」の観点から抽出した種をいう。また、これらの種に着目することにより、生態系による物質循環や浄化機能についてもある程度確認できると考えられる。

「注目種」の選定に当たっては、できる限り情報が多く得られる種を選定することが望ましく、季節変化等の時期的な変化も考慮し、地域の生態系の特徴を把握できるよう留意する必要がある。

ア 上位性

「上位性」の調査対象種としては、相対的に栄養段階の上位に位置する種で、生態系の擾乱や環境変化などの影響を受けやすい種が対象となる。一般的には、肉食の動物で、生息する個体数は少ないが、個体のサイズが大きく、移動能力に